

第 13 回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議

第 13 回戦略会議については、令和 2 年 8 月 26 日に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、可能な限り感染症の拡大リスクを低減させるという観点から、一箇所に集う形での会議ではなく、資料により事業の進捗や情報の共有を行い、意見を取りまとめ、共有する形で実施しました。

その概要は以下のとおりです。

●内 容

1 令和 2 年度 京都府介護・福祉人材確保総合事業（北部地域関連）について〔説明〕

I 福祉人材育成認証制度等の活用促進

II 外国人介護人材確保事業

III 介護ロボット及び ICT 機器導入支援事業

2 令和 2 年度京都府北部福祉人材養成システム推進事業について〔報告〕

京都府北部福祉人材確保事業（7 月末時点）

■北部福祉人材カフェ運営事業

新規登録者数： 96 名（年間目標：420 名）

内 定 者 数： 100 名（年間目標：360 名）

・緊急事態宣言による業務停止の影響や、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントを中止したため、新規登録者数は前年と比較するとのび悩んでいるところ。

・一方、のべ相談件数については、来所利用者は激減したが、電話やメールによるカウンセリングを積極的に行った結果、概ね例年どおりの件数となっている。

・内定者数については、求職者の年代、特性に合わせたきめ細かい支援を行い、概ね例年どおりの数値を達成。正社員の内定者数については、求職者の 70%が女性で、パート就業を希望される方が多い傾向があり、昨年と同じくのび悩んでいるが、目標値は達成できている。

■北部福祉人材カフェ・各事業について（with コロナ時代における工夫など）

オンライン参加ができるイベントを実施したところ、遠方からの参加が可能になる等、北部地域の福祉人材確保事業を推進するにあたり、あたらしい展開を模索することにつながっている。

① ハローワークとの連携（ミニ就職説明会等）業務

・府北部地域のハローワークと連携し、「福祉のおしごと説明会」の“ミニ就職説明会”を 2 回、“出張相談会”を 19 回を実施、合計 50 名の方に参加いただいた。

・「福祉職場見学会・体験会」の実施を見合わせる一方、オンラインによる個別企業説明会を企画。

② 求職者向け“テーマ別”福祉の実践セミナー

・8/26 認知症サポーター養成講座（@市民交流プラザふくちやま）

・9/17 聞こえのサポーター養成講座（@市民交流プラザふくちやま）

・10/29 認知症サポーター養成講座（@舞鶴 YMCA 専門学校）※教室型・オンライン併用

・11/26 聞こえのサポーター養成講座（@舞鶴 YMCA 専門学校）※教室型・オンライン併用

・12/ 9 認知症サポーター養成講座 (@市民交流プラザふくちやま) ※教室型・オンライン併用

③ 求職者向け“世代別”福祉の入門セミナー

・6/26 若年層向け・福祉の仕事を知るセミナー (オンライン・4名の学生参加)

・7/16 ミドル・シニア世代向け・新しい働き方応援セミナー (@市民交流プラザふくちやま) (9名が参加)

・9/10 ミドル世代向け・キャリアチェンジセミナー (@市民交流プラザふくちやま) ※教室型・オンライン併用

・9/16 若年層向け・福祉の仕事を知るセミナー (@市民交流プラザふくちやま) ※教室型・オンライン併用

④ その他 事業者向けセミナー (オンライン企業説明会のやり方セミナー)

・6/18 zoom オンライン説明会 (第1弾) スタートセミナー (8法人・10名参加)

・6/26 zoom オンライン説明会 (第2弾) ステップアップセミナー (オンライン・8法人・10名参加)

■福祉即戦力人材養成科

・令和2年 7月 21日(火) から 令和2年 12月 18日(金) 丹後会場 19名

・令和2年 9月 1日(火) から 令和3年 1月 29日(金) 中丹会場 18名

・ソーシャルディスタンスの観点から、会場の大さの都合上、各定員を20名で募集。

・緊急事態宣言解除と同時に本格的に募集開始。丹後会場は募集期間が短くなった分、ハローワークに出向き、来所者に募集チラシを手渡す等、積極的に働きかけたことで受講生確保につながった。

■理解促進事業

○次世代担い手育成事業 (小学校・中学校 対象)

・これまで施設職員や専門家による出前授業と、福祉施設での体験学習をセットで実施していたが、施設側の受け入れが難しいことから、秋以降は出前授業を中心に各学校に提案し調整をすすめる。

11月までに3校73名が参加予定

○次世代担い手育成事業 (高校生 対象)

・福祉施設見学会やインターンシップについては、受け入れが難しい状況だが、学校側に希望があるため、状況を見つつ調整をすすめる。

・一方、出前講座や進路指導セミナーは、オンラインによる実施も検討しつつ、秋以降調整をすすめる。

■大学実習等誘致事業 (北部福祉フィールドワーク事業)

・現時点で4大学・約197名が参画予定 (ラーニングサポーター型含む)

その他、3大学も参画に向けて具体的に検討中。

・ラーニングサポーター型は、「90分講義対応プログラム」として、“オンライン型”と北部施設職員による出張“出前講座”型を準備。9月以降、ラーニングサポーター型フィールドワーク「福祉の学びプログラムリスト」を、大学教員あて提示し、本格的に参加者を募る予定。

・ラーニングサポーター型「90分講義対応プログラム」で学んだ参加者には、その後、「現場の学びを深めるプログラム」を案内し、大学(教員・学生等)と府北部地域の福祉施設とが、福祉の学びの活動を通してつながれる仕組みの構築を目指す。

・状況をみて従来の「まちぐるみの体感学習型フィールドワーク」へも参加してもらえるよう、引き続き、まちぐるみの受け入れや連携協力体制のブラッシュアップを行う。

《きょうと介護・福祉ジョブネット 北部フィールドワーク型実習推進チーム》

・第1回会議（5月28日・zoom会議）

ラーニングサポーター型フィールドワーク(オンライン対応)の進め方 確認

大学の講義、学生の相談への対応等、福祉の学びのサポートができる北部地域の福祉施設職員を募集し、対応できる“福祉の学びプログラムリスト”の企画・制作を進める。

・第2回会議（10月の開催に向け調整中）

3 令和2年度京都府北部福祉人材養成システムの進捗等について〔共有〕

《福知山民間社会福祉施設連絡協議会》

○ 介護福祉士実務者研修：次年度に延期

（6月から12月、12日間で開講し32名が受講予定であったが、受講生の生活圏域内で感染者があったため延期することとした。）

○ 介護職員初任者研修：中止

（4月から7月の12日間で開講予定であったが、緊急事態宣言を受けて延期。その後も感染拡大が収束に至っていない状況を踏まえ、演習中心の資格取得実習であるため、6月末に中止を決定した。）

○ 現任者研修：一部中止、一部オンライン化を視野にいれつつ実施予定

・グループワーク等が中心の研修であるため、感染リスクが高い研修であると判断し、中止することとした。

契約職員研修 : (7月開催予定であったが中止)

基礎技術研修 : (8月開催予定であったが中止)

施設職員情報交換研修 : (11月開催予定であったが中止)

・座学の研修であるため、感染拡大の状況を踏まえオンライン研修に切り替えることを視野に入れつつ、開催することとした。

外国人受け入れスタッフ研修 : (10/8 実施予定)

福祉専門研修・記録の書き方 : (10/9 実施予定)

中堅職員向 OJT 推進能力向上研修 : (10/23 実施予定)

○ 京都府北部協働推進事業研修

・座学の研修であるため、感染拡大の状況を踏まえオンライン研修に切り替えることを視野に入れつつ、開催することとした。

職場リーダー養成研修 in 京丹後 : (9/23 実施予定)

マナー研修（新任職員・中堅職員）in 京丹後 : (9/25 実施予定)

中堅職員向けコミュニケーション研修と記録の書き方研修 : (10/7 実施予定)

○ その他 ニーズ対応型研修

普通救命講習 : (演習中心のため中止)

防災研修 : (座学中心であるため、ソーシャルディスタンスの対応を図り実施予定)

介護福祉士国家試験対策講座 : (介護福祉士実務者研修の延期に伴い、次年度に延期)

《舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校》

- 入学者数の変遷
H27 14名 → H28 23名 → H29 23名 → H30 22名 → H31 23名
- 令和2年度入学者15名
- これまでの卒業生74名は、すべて介護・福祉施設に就職。

《宮津総合実習センター》

- これまでから、資格実習（介護福祉士、社会福祉士、保育士、看護師）は、各資格種別の実習カリキュラムに則った内容で現場実習ができるようなプログラムを整理し、大学生、専門学校生に加え、令和元年度からは高校生の実習受け入れも行ってきた。
- また、インターンシップ、府北部福祉フィールドワーク事業等での学生受入では、学生のニーズに合ったプログラム（課題解決型・職場体験型・フィールドワーク型）を実施し、整えてきた。
- ・7月末までは、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、実習やインターンシップ等の受け入れを見合わせた。With コロナ時代に対応した事業として、WEBを活用して福祉のリアルを伝える1対1の対談「WEBトーク」や、「リモート見学ツアー」、これからの福祉を参加学生らで考える「オンラインワークショップ」「オンラインセミナー（THE 福祉セミナー）」等を実施した。
- ・8月以降は、法人で整理した「実習受け入れガイドライン」に基づき、現場での実習やインターンシップを受け入れていく予定。
- ・高校生の現場体験については、7月から地元高校の授業の受け入れを開始した。

4 令和2年度北部各市町における取組状況について〔共有〕

《福知山市》

- ・介護人材確保対策事業 10,986 千円（継続）
各種助成金支給事業：介護職員 UI ターン家賃助成事業(①20名)、介護福祉士修学資金貸付事業(①2名)、介護福祉士実務者研修受講料補助金（①12名）、介護職員初任者研修受講料補助金（①30名）
介護職員実務者研修実施負担金（研修実施に係る会場賃借料 等）
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、例年の介護の日のイベントは行わず、代替事業として市民への周知を図る企画を検討中。

《舞鶴市》

- ・介護人材確保支援事業 46,100 千円（継続）
- ・舞鶴 Y M C A 国際福祉専門学校と連携して介護人材の確保に向けて支援事業を実施。
各種資格取得支援事業（介護福祉士奨学金制度、介護福祉士資格取得支援講座受講料助成、介護職員初任者研修受講料助成）

《宮津市》

- ・介護人材確保推進事業 2,550 千円（継続）
介護資格取得研修等の受講費の補助金、介護福祉士修学資金、雇用機会拡大補助金
福祉就職フェア関連経費

《綾部市》

- ・UI ターン福祉人材確保事業 910 千円（拡充）
市内の介護事業所に就業するUIターン者及び新規学卒者に対する家賃補助。令和2年度から対象を介護事業所に加え、障害福祉サービス事業所、障害児童福祉サービス事業所、保育所に拡充。
- ・介護福祉士養成支援(修学資金貸与)事業 2,000 千円（継続）
- ・介護職員研修受講支援事業 555 千円（新規）
市内施設の介護職員の介護職員初任者研修又は介護福祉士実務者研修の受講料を補助

《京丹後市》

- ・京丹後市介護福祉士養成奨学金 1,800 千円（継続）

《伊根町》

- ・社会福祉士、介護福祉士の資格を取得するために必要な研修の受講費を補助する「介護福祉士資格取得研修費補助事業」を実施していたが、活用がない状態が続いていたため廃止した。

《与謝野町》

- ・喀痰吸引等研修事業費補助金 60 千円（継続）
- ・介護福祉士修学資金貸与事業 1,200 千円（継続）

5 その他 福祉人材確保の取組について〔共有〕

《京都府福祉人材・研修センター》

- 京都府福祉人材・研修センターでは、ホームページを6月にリニューアルし、福祉人材確保に向けた一層の情報発信に取り組んでいる。ホームページでは、当センターの機能である「京都府保育人材マッチング支援センター」と「京都府外国人介護人材支援センター」の役割も掲載している。
- 福祉人材確保における新たな取組として以下の3つの新規事業を開始したところである。
 - ①WEB版 FUKUSHI 就職フェア（合同就職説明会）
 - ・7月26日から6回開催（毎週日曜日の午後）出展法人93法人、延べ154回の参加。
 - ・1回あたり25法人程度が出展し、4ターム制で実施。
 - ②学生福祉職場就活応援サイト
 - ・7月1日開設。法人（事業所）に学生アルバイト募集状況の照会を行い、人材・研修センターHPに一覧表示。学生は一覧リストから希望するアルバイト先を選定。
 - ③保育園・認定こども園合同就職説明会を府内4箇所で開催予定。
 - ・北部地域では、9月6日（日）に舞鶴市西駅交流センターを会場に、福知山市・舞鶴市・綾部市から16園出展予定。京都駅から会場まで無料送迎バスの運行を計画。
- 介護人材のすそ野を広げるため、「介護に関する入門的研修（4日間のプログラム）」を昨年度に引き続き開催。今年度は開催場所を福知山市から舞鶴市に移して実施予定。
(現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本事業の実施については現在調整中であり、今年度は休止や別の方法(オンライン等)での開催の場合がある。)

6 意見交換等

- ・京都府北部福祉人材養成システムの3 拠点が抱えている課題と、各市町の抱えている課題について、協力し合えるところがないか具体的に協議する機会をつくりたい。
- ・実習等で様々の方々が訪れる宮津総合実習センターにおいて、府北部地域全体の福祉施設の魅力を発信するような協働事業を実施できれば、効果的だと思う。
- ・人の移動の自粛が求められる状況になり、福祉施設側も面会制限をかけている中で、実習やインターンシップ等で学生に府北部地域に来てもらうのは難しくなった。府北部地域の介護・福祉の担い手を、今後も安定的に確保していくため、with コロナ時代における学生と府北部地域の福祉施設との新しいつながり方を検討していきたい。
- ・就職支援機関や教育関係機関には、市町の介護保険担当課が接する機会の少ない、求職者や学生に対して“府北部地域の介護現場への関心を寄せていただく”ための事業を展開いただくことを期待している。そうした事業を市町も関係機関と連携のもとやっていきたいと思う。
- ・高等学校、専門学校等や関係機関とさらに連携を深め、福祉人材の確保の協働事業を企画していきたい。
- ・新型コロナウイルスの影響で離職された方に対し、府北部地域の福祉職場の魅力を伝え、地域の福祉を支える人材となっただけのよう、ハローワークやジョブパークと連携して効果的な事業を展開していきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束に至っていない状況を踏まえ、職員の出張を原則禁止としている福祉施設も多い状況を鑑み、本会議の持ち方もオンライン形式とする等の工夫が必要になってくると思う。

以上。